

街とヒトの成長を見つめて1世紀

ワタケンだより

新春号
2022年
No.63

特集
・2022年 年男年女
・渡辺建設の地域貢献 (防災対策)

トピックス

沼津工業高校インターンシップ開催
ワタ弁コーナー 総務部 中村夏海さん



マックスバリュ裾野店／裾野市

二〇二二年／令和四年がスタートしました。昨年も新型コロナウイルスの猛威が世界中をおお一年となりましたが、ワタケンの普及など明るい兆しも見え始めています。今年こそは状況が改善され、かつてのように皆様方とマスクを外して忌憚なく語り合える日が訪れることを願ってやみません。

先日、業界紙「建通新聞」からインタビューを受けました。内容は静岡の建設業として一〇〇年企業にあたる会社にスポットをあてるというもので、一九〇七年創業の当社を紹介していただきました。インタビューにあたり改めて当社の歴史を調べてみました。今回のコロナ禍だけではなく当社はこれまでも数多くの世界的な変革期と向き合ってきたことがわかります。



具体的な関東大震災、第二次世界大戦、オイルショック、東日本大震災などです。インタビューの中で、会社を一〇〇年以上存続出来たのはな

今年が皆様にとってよりよい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。今年も渡辺建設をよろしく願います。

先日、業界紙「建通新聞」からインタビューを受けました。内容は静岡の建設業として一〇〇年企業にあたる会社にスポットをあてるというもので、一九〇七年創業の当社を紹介していただきました。インタビューにあたり改めて当社の歴史を調べてみました。今回のコロナ禍だけではなく当社はこれまでも数多くの世界的な変革期と向き合ってきたことがわかります。

新年のごあいさつ



代表取締役
渡辺 正高

ぜかという問いがありました。自分が会社の全てを知っているわけではないですし、これまで先輩方の話や個人的な考えをめぐらした中でお答えした内容は、先述の創業以来のいくつかの社会的な変革期に飲み込まれながらも、独断で判断せず社員一丸で知恵を絞りましたし、チームワークで乗り切ってきたことが要因ではないかと回答しました。

実際のところは私自身が感じることで、これまで先輩社員の方からもそのような話を何度も聞いていたのでひとつの答えであると確信しています。

【発行】渡辺建設株式会社 〒四〇一二五 裾野市富沢三九四一

電話〇五五九二〇〇三〇(代) 【編集】ワタケンだより編集部

作品
WORKS

田子の月裾野店／裾野市



六M一四号線／裾野市



小柄沢川／裾野市



西中仮設校舎／裾野市



沼津工業高校1年生を対象に現場見学会を実施



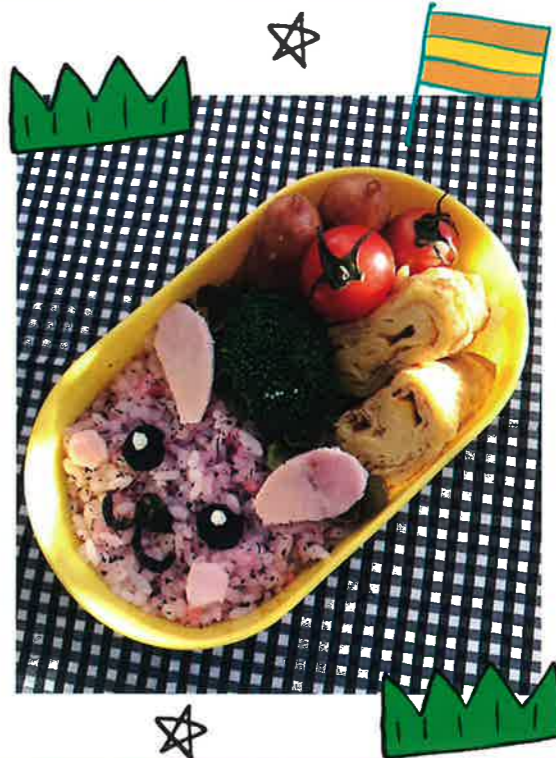
十月六日(水)、静岡県立沼津工業高等学校建築科一年生の生徒を対象とした現場見学会を実施しました。

新型コロナウイルスの影響で例年のようなインターンシップの開催が難しい状況の中、沼津市内にあるワタケンホームの現場での見学会をお施主様のご厚意により開催出来ました。

当日は当社の渡辺社長が建設業界や仕事の内容について教室で講義を行った後に現場へ移動。ワタケンホームの現場を訪れ、沼津工業卒業生の塩川課長の説明の下、住宅工事についてや現場での工事の概要について生徒に説明がなされました。生徒の皆さんは施工中の建物の内部や、当社モデルハウスの模型に興味深く見学していました。

ワタ弁コーナー

ワタケン社員のお昼を紹介するコーナーその名も「ワタ弁」。今回は、総務部 中村夏海(姉)さんのお弁当を高校生の妹さんに作ってもらいました。



耳とほっぺはハムで目と口はのりを切って作りました。目の光の所はチーズです。姉▼食べるのがもったいないくらいかわいいですね。ゆ

姉▼とても可愛いつぎささんのお弁当をありがとございます。綺麗なピンク色ですが、どうやって染めたのですか？

妹▼つぎささんの顔の部分はゆかりご飯になっています。

かりがちゃんと混ぜていておいしいです。卵焼きも上手に焼けています。

次号のお弁当もお楽しみに☆

渡辺建設の地域貢献：防災対策

渡辺建設では毎年6月に地域貢献活動として周辺の清掃活動及び防災訓練を、日頃お世話になっております地域の方々に向けて感謝の気持ちで実施しております。

それと同時に企業としての防災対策としてBCP（事業継続計画）を策定しており、地域防災についても貢献できるよう活動しております。

BCP（事業継続計画）とは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

建設会社として災害復旧が迅速に対応できるよう日頃からその意識を高め、災害時本社を災害本部とするためのインフラの整備を整えております。その中の一つとして、停電時でも電力を確保できるよう弊社には太陽光発電システムの導入と併せて、プロパンガスで発電ができる発電機を導入しております。

災害等の緊急時地域の皆様の安全、避難の一助になれば幸いです。



災害対策本部



防災訓練風景



発電機燃料

プロパンガスを使用します。
一般家庭用のボンベにて発電が可能です。



発電機本体

災害時自動で発電を開始します。
連続使用時間は72時間あり3日間電気の
使用が可能です。



入社三十六年で六〇歳年男です。土木一筋でした。この間にかんがりの技術的進歩があったと思います。図面ならば最初のころは手書きの物を青焼きして製本していました。今はCADデータをタブレットで持ち歩けます。書類にしても漢文タイプライターと文豪というワープロの機械が総務に一台ありそれを共用していました。後にPCルームができそれを共用です。またWindowsはなくMS-DOSで五インチ



執行役員
土木部長
横山卓生

の紙カバーフロップディスクでした。書類の作成で残業するのでなく、使い方が解らず残業していました。それが今ではPC一台で図面、写真、測量計算など全てが出来ます。ですが良い物を作るには昔から変わらない事があります。それはお施主様、協力会社との信頼関係です。よくコミュニケーションを取り、意思伝達をはっきりすることだと思えます。これから皆様との信頼関係を大切にしたいと思っています。



新年あけましておめでとうございます。昭和四十九年生まれです。数年前までは、現在の世界は、想像もできませんでした。丑去寅来という諺（どんなに辛くても丑年のつぎには寅年がくる）がありますが、来年のみならず、明日は必ず来ます。今日一日に感謝し、今日一日を大切に未来に向かいたいと思います。



工務部
課長
上原 淳



最近では一人で現場を行うことも多くなってきて余裕がない日々が続くことも多いですが、後輩も徐々に立派に成長する中で入社六年目にして一つ気づいたことがあります。後輩へ仕事を教えることの難しさです。自分自身今まではわからないことがあったら上司に電話で相談して助けて頂くことが多かったですが、いざ違う現場



土木部
副主任
杉山幸輝



場で働く後輩から電話で質問等があるとすぐに答えられないことがあります。同じ現場にいるわけでもなく現場は日々形を変えていく中で、電話だけでは答えられないことは当たり前だろうと思う方も多いとは思いますが、今年は上司が自分にしてきたように電話口でも現場のイメージを深く持てる監督になりたいです。



Do our best
二〇二二年寅年社員今年の抱負